「萌え」と「かわいい」の違い
―なぜ「萌え」が使われ続けるのか―

江藤　薫

本研究は、「かわいい」と「萌え」の違いを明らかにするものである。筆者は趣味でコンセプトカフェに行くのだが、そこで普段何気なく聞いていた「萌え萌え」というメイドのセリフにふと疑問を抱いたのが研究のきっかけである。「萌え」と「かわいい」はどう違うのか。そもそも「萌え」とは一体どういう意味で使われているのだろうか。

1 章では、「かわいい」と「萌え」をめぐる先行研究を整理した。比較対象となる「かわいい」の定義を明らかにし、その上で、「萌え」の起源や現代社会において「萌え」に含まれている要素、ジェンダーの構造から捉えた「萌え」という言葉の持つ意味を明らかにしていった。「萌え」起源は諸説あるが、マンガやアニメの世界で生まれたという説が有力視されており、オタクの強い好意や愛情を示す言葉として定着したとされている。それは主に、女性キャラクターへの視線であり、その視線をジェンダーの構造から捉えたとき、「萌え」は女性の客体化であり、女性像の性的搾取にあたるという指摘もなされている。

2 章では、朝日新聞と読売新聞の記事を参考にし、「萌え」を使った商品戦略や、地域興しの実例を取り上げ、「萌え」の持つ要素がどのように人々に対して機能しているのかを明らかにしていった。また 2 章の最後には、「萌え」に対する否定的な意見とし、「萌え」という要素を良く思わない人たちの意見や事例も取り上げげた。否定的な意見の代表例には「萌え」の持つ女性に対する性的搾取の面があり、1 章との繋がりがみえた。

3 章では、実際に普段人々はどのように「かわいい」と「萌え」を使っているのか、「かわいい」と「萌え」の差異を見つけ出すことを目的としてアンケートを行った。男女 30 名ずつの計 60 名にアンケート結果から、「かわいい」と「萌え」という言葉の意味での比較のみならず、その言葉を使う男女間での比較も行った。男女ともに、「かわいい」と「萌え」という言葉を使っていても、その用途には男女差がある場合があることが分かった。

4 章では、3 章のアンケート結果から見えてきた「かわいい」と「萌え」の違いや、「萌え」の持つ特異性をアンケート項目ごとに詳細に考察していった。「萌え」には「かわいい」にはない汎用性の高さがあることが判明した。

５章では、全体のまとめとして「萌え」は、特定の狭いコミュニティで育まれたのも関わらず、現代では使用する人によって様々な意味を持つ言葉へと変容した。しかし、汎用性の高さ故に、性的なマイナス要素としてみなされるようになったことも明らかになった。